



暦の上では春立ちましたが、変わらずの厳しい寒さが続いております。
皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

日本海側では、強い寒気に加えて、発達した雪雲が流れ込み続けている影響で、とくに北陸から近畿北部では記録的な豪雪となり、交通障害や、除雪や排雪が間に合わないなどの生活障害が発生しています。

福井県にいた方の話ですと、真冬と今頃では雪質が違い、氷の結晶のさらさらした雪ではなく、水を含んだ湿った雪で、重くて大変だ、と聞きました。インターネットの調査によると、日本人の約半数が最も嫌いな季節に冬を選んでいるところを見ると、どうやら私たちは寒さが苦手なようです。

ですからこういう時こそ、ホットで心に響くお話をしたいと思います。私が、毎月こうしてお手紙を書く中で、ただ詩を掲載しただけなのですが、とても反響のあった、秋田県二ツ井町が主催した「第1回日本一心のこもった恋文」大賞に輝いた柳原タケさんの詩です。本当にこの詩は何度読んでも素晴らしいので、また全文をご紹介します。

『 天国のあなたへ 』

秋田県 柳原タケ

娘を背に日の丸の小旗を振ってあなたを見送ってからもう半世紀が過ぎてしまいました。
たくましいあなたの腕に抱かれたのはほんのつかの間でした。

三十二歳で英霊となって天国に行ってしまったあなたは今どうしていますか。

私も宇宙船に乗ってあなたのおそばに行きたい。

あなたは三十二歳の青年、私は傘寿を迎えている年です。

おそばに行った時おまえはどこの人だなんて言わないでね。

よく来たと言ってあの頃のように寄り添って座らせてくださいね。

お逢いしたら娘夫婦のこと、孫のこと、またすぎし日のあれこれを話して、思いきり甘えてみたい。あなたは優しくそうかそうかとうなずきながら慰め、よくがんばったとほめてくださいね。

そしてそちらの「きみまち坂」につれていってもらいたい。

春のあでやかな桜花、 夏なまめかしい新緑、

秋ようえんなもみじ、 冬清らかな雪模様など、

四季のうつろいの中を二人手をつないで歩いてみたい。

私はお別れしてからずっとあなたを思いつづけ愛情を支えにして生きてまいりました。

もう一度あなたの腕に抱かれてねむりたいものです。

力いっぱい抱き締めて絶対はなさないで下さいね。



32歳で戦死したご主人に宛てて、柳原タケさんという方が50年後にしたための恋文に胸があつくなります。

さて2月の請求書を同封いたします。お問合せはお気軽に総務や担当者までお問い合わせください。春の訪れは、もうそこまできておりますが、三寒四温の季節柄、お身体おいとくたさいますよう。

乳頭温泉
(秋田)



令和7年2月10日

総施設長 神原美智子